

ダナンがん病院医師とご懇談



総裁・秋篠宮皇嗣殿下は、ベトナム社会主義共和国との外交関係樹立50周年で同国を公式にご訪問中の9月24日、ベトナム・ダナン市内で、済生会の病院で研修を受けたダナンがん病院の医師とご懇談された。

総裁・秋篠宮皇嗣殿下 本会での研修11人と現地で

ダナン市はベトナム中部の中心都市。ダナンがん病院は平成25年、中部地域で最初の専門病院として開設された。がん治療のレベルを高めるため本会との間で人材教育面を中心とする協定を締結。医師や放射線技士が日本の済生会病院で研修を積み重ねた。

殿下は炭谷理事長から済生会とダナンがん病院の関係について概略説明を受けられた。その後の研修を受けた医師11人との懇談では、済生会の病院で学んだ医療技術が、ダナンがん病院で着実に展開されている状況や、最初に研修に訪日したグエン・タン・フン医師が現在では副院長として病院の診療体制を支える中核的な役割を担っていることなどを興味深そうにお聞きになった。

殿下は、ダナンがん病院の患者さんの癒やしとなる環境づくりのために、絵画を寄贈された。

国際連携は再開へ

殿下のご訪問に先立ち炭谷理事長がダナンがん病院を訪れ、チャン・トゥー・クイ院長とコロナ禍で中断していた研修受け入れ事業の再開に向けて話し合った。この結果、来年度から研修受け入れ事業が再開予定となった。

ダナンがん病院は、「ダナン恵まれない女性と子供を支える会」を母体に開院したが、ダナン市には医科大学が無く、がん領域のレベルを高める教育や研修が喫緊の課題だった。本会は平成27年に国際連携推進委員会を開催し、ダナンがん病院の設立趣旨が本会の理念と重なることから人材育成事業の実施を決定。同年、炭谷理事長が現地を訪問し、医師をはじめ人材交流・育成を進めるための「ヘルスケア連携事業」に関する包括覚書を締結した。

〈神奈川県〉横浜市南部病院が2人の研修生を受け入れて以降、令和元年までの6年間で合計15人の医師らを受け入れた。

(総合戦略課)

THE NEWS SAISEI



発行所
社会福祉法人 済生会
東京都港区三田1-4-28 三田国際ビルディング21F 〒108-0073
電話 03-3454-3311
FAX 03-3454-5576
編集兼発行人 炭谷 茂

https://www.saiseikai.or.jp/

ニュース 済生

高松宮記念基金にご協力ください

令和5年1月～9月分実績

◎本会会員加入状況	38,815人	82.5%
	43,521口	8,704万円
◎外部会員加入状況		
◎一時寄付状況	21件	50万円
	(内、自販機関係)	27万円
◎募金箱		41万円



無印良品と連携協定 インクルーシブ社会目指し

済生会は10月2日、無印良品を展開する株式会社良品計画（東京都豊島区、堂前宣夫代表取締役社長）と地域社会の課題解決に向けて取り組むべく、「インクルーシブ社会・感じのよい暮らしと社会の実現に向けた連携協定」を締結した。

本会で行なわれた締結式で、良品計画の堂前社長と済生会の炭谷理事長が協定書に署名した。堂前社長は「心豊かな社会の実現に向けて済生会と一緒に取り組みたい」と述べた。炭谷理事長は

「誰もが暮らしやすいまちづくり」に取り組み済生会と同じ志を持っており、「大変心強い」と語った。

良品計画は予防・健康維持・治療を通じて地域のまちづくりに貢献する取り組みを実施。広島県や新潟県の店舗では地域住民の健康維持・病気の予防のための商品や情報などを提供する「まちの保健室」を設置している。

今般の協定では、健康増進、疾病・介護予防、フレイル予防、生きがいづくりに関する取り組みや在宅医療、在宅介護をサポートする一連のハードとソフトの共同開発など10項目について良品計画と済生会が連携するとしている。(総合戦略課)



整備計画変更を審議

施設運営委員会
施設運営委員会が10月2日、本会で開かれた。参与会議で協議された横浜市南部病院の再整備計画等が承認され、10月13日の理事会に上程される。

【審議】①施設整備計画の再編統合に向けた協議状況④経営状況報告(病院)⑤経営状況報告(老健・特養)⑥無料低額診療実施状況報告(病院)⑦コロナ感染状況報告

次回は12月18日に開催する。

(経営管理課)



横浜市南部病院の新築移転を協議

参与会議
初めての参与会議が9月27日、オンラインで開催され、「済生会横浜市南部病院の再整備事業計画」を協議した。

参与会議は病院の統廃合や新設・指定管理、法人経営に特に大きな影響を与える重要な案件について協議し、施設運営委員会に意見を述べる場として、令和4年6月に施設運営委員会規則を改正し設立された。

今回は、福岡総合病院・岡岡健一郎名誉院長を座長に選任、神奈川県済生会・赤星透支部長、横浜市南部病院・竹林茂生院長らが整備計画を説明した。

横浜市南部病院は開院から約40年が経過。老朽化などの課題があり、令和2年3月に横浜市と移転の基本協定を交わして検討を進めてきたが、資材高騰の影響で計画を見直し、改めて提出された。新病院は80床減の420床、現在と同じ港南区内の市有地(工場跡地)で再整備し、令和10年の開院を見込んでいる。

参加からは医療の提供体制や建設費の高騰時の対応、土壌汚染の責任の所在、借入金、災害対策などについて質疑があった。本会議での議論を踏まえ、10月2日の施設運営委員会で審議する。

(経営管理課)

静岡医療福祉センター 須藤正起施設長が逝去

須藤正起施設長が9月23日、逝去された。64歳だった。葬儀は静岡県沼津市の龍雲寺で、家族葬でしめやかに執り行なわれた。

須藤氏は静岡医療福祉センターライトホーム施設長に平成25年5月に就任。同年6月から令和5年6月までは公益社団法人静岡県視覚障害者協会会長を務めた。

静岡医療福祉センターライトホームで視覚障害者に対し三療(あん摩・マッサージ指圧・はり・灸)の資格習得を支援し、治療に必要な指導や職業的自立推進に尽力された。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

熊本みすみに初の訪看

「地域に優しさと笑顔を…」

〈熊本〉みすみ病院が10月1日、「訪問看護ステーションみすみ」を院内に開設。看護師4人が入院中から在宅、外来へと切れ目のない支援を行う。同院では地域の急速な高齢化や人口減少に伴う高齢独居世帯や老老介護世帯の増加で、近隣の医療施設が減少し、在宅医療・福祉を必要とする方への継続支援が課題だった。また、新型コロナウイルスの面会制限で、入院ではなく可能な限り「自宅で過ごしたい」という患者



開業初日、みすみ病院長・庄野弘幸氏は「この20年間地域に根差した病院を目指してきたが、高齢者の増加に加え、それを支える若い世代の減少などの問題も浮き彫りになっている。回復期リハビリや訪問リハ・通所リハの導入を進めてきたが、在宅ケアの核となる訪問看護ステーションの開設には至っていなかった。この開設をきっかけに、支える側としてさらなる在宅ケアの発展につなげたい」と挨拶。その後テープカットが行われ、管理者兼看護師・松下美佐子氏は「利用者や家族に寄り添い、その人

らしく、安心して過ごせるような訪問看護を行なう。皆さまの協力のもと、優しさと笑顔があふれる訪問看護ステーションづくりを目指す」と抱負を述べた。

（熊本・みすみ病院 済生記者 船橋麻紀）

ブロック会議

【東北・北海道】
山形市で110人

東北・北海道ブロック会議が、9月22日ホテルメトロポリタン山形で開催され、済生会本部・支部・施設役員職員110人が参加した。

全体会議では本部から病院部門の経営状況、サイバー保険の補償範囲の拡大、CFの活用事例等の報告があった。

分科会には支部・病院、特養部門等の5部会に分かれて開催。それぞれ「経営コンサルタントを活用した経営改善の取り組み」「生産性向上への

介護職員確保対策WG 外国人雇用拡大等を議論

介護職員の人材を法人全体で確保するための取り組みを議論する「第3回介護職員確保対策ワーキング」が9月25日に本部で開催された。

この日は、8月に開かれた同ワーキングで提示した法人全体で取り組む人材確保対策案について「介護職員確保アクションプラン」と題し、議論した。ブランド力の向上、ダイバーシティの推進、外国人雇用の拡大等について意見交換が行なわれた。

今後は8月に承認された看護職員の確保対策案と併せて一部修正。今秋に開催する人材確保



対策委員会に上程し、審議される予定。

（事業基盤課）

コンプラ研修に96人 済生会人は高い意識を

コンプライアンス研修が9月13日、オンラインで開催され、施設長等が務める副法令遵守責任者、支部の内部管理体制担当職員等96人が参加した。

対策委員会に上程し、審議される予定。

（事業基盤課）

済生会法令遵守責任者・松原了理事が挨拶、炭谷茂理事長は「済生会におけるコンプライアンス」と題し、本会で過去に起きた無事業の不適正な報告について「済生会は何のために存在するのか、理念が不十分であるか、監査指導体制の欠如があった」と述べた。

最近の事例では新型コロナウイルスが大きな転換点となり、国民やメディアなどがより高いコンプライアンスが求められる時代。社会福祉法人である本会は民間以上に高度なコンプライアンスの確立が必要である。そのためには、個人がコンプライアンスについて学ぶ姿勢や人権意識を持つこと、支える組織が規則をしっかりと



作り、そのうえでボランティア等の第三者の目を入れることが大切になる。さらにコンプライアンスを守ることで経営基盤の強化、済生会のブランド力の向上につながることを強調した。

株式会社インソースの吉田英策講師は「コンプライアンス」「個人情報保護」「情報セキュリティ」「SNSの取り扱い」を講義。グループワークでは21組に分かれ、事例検討が行なわれた。吉田氏は「コンプライアンスは何も起きないことが大切。攻めと守りの間で迷った時、判断のよりどころは理念であることを忘れないでほしい」と締めくくった。

（監査指導室）

経理研修会に238人 インボイスの留意点を

9月12日に本部で経理研修会がオンラインで開催され、支部・拠点の経理実務担当者など238人が参加した。

テーマは10月1日からスタートした適格請求書等保存方式（インボイス制度）への対応。本会の顧問税理士・高野寛之氏（公認会計士・税理士）が講師を務めた。

本年2月の経理研修会では未確定だった内容や、本部税務相談窓口に寄せられた質問から特に留意すべき事項を解説。インボイス制度に対応した会計処理例や消費税込分の取り扱いなど日々の経理業務における伝票起票の際の留意点についても説明した。

（経理課）



「九州」
人材確保に重点を

第60回済生会九州地区ブロック会議が9月29日、宮崎観光ホテルで開かれ、松原了理事をはじめ支部・施設役員職員68人が参加した。

「支部部会」では、支部でのガバナンスのあり方や介護職員不足の対応について議論。現状の見直しも行なった。

続いて「院長部会」「看護部長部会」「事務（部）長会議」等の5分科会では人材確保やアフターコロナの取り組み・課題について意見交換を行なった。

開催担当支部である京都府済生会の中村直登支部長が開会挨拶、合同会議では炭谷理事長の挨拶、本部からの伝達があった。基調講演では株式会社CUCの池田周一氏が「Afterコロナにおける検討と対策、2024年度診療報酬・介護報酬同時改定に向けて取り組むべきこと」を講演した。その後、支部長・病院長、看護部長等の各分科会に分かれ、医療DX、人材確保・人事評価、コスト削減、タスクシフト・タスクシェア、などしこプラン、離職防止等の議題について意見交換を行なった。

来年度は和歌山県済生会が担当する。

（京都府済生会病院 企画広報室長 松岡志穂）

「あした」は、ナニイロ？

匠島のしごと。
それは「あした」をつくること。
人と自然と向き合って、
よりよい毎日をつないでいくこと。
暮らしを描く、ものづくり。
無限の創造力で、彩り豊かな未来へ。

100年をつくる会社
in 鹿島

新任看護部長研修を9月21日・22日に開催し、76人が出席。福祉施設や訪問看護ステーションの管理者も参加した。

炭谷茂理事長は歴史的な転換期である今、最も済生会の活躍が願われる時代であることを訴えた。

（茨城）水戸済生会総合病院・榎山千景看護部長は「看護部長二組織二人材育成」をキーワードに看護部長の役割を考えるワークを実施。高田誠講師は講義の中で管理者としてのマインドやリーダーシップの捉えなおしを行なった。

（看護室）
済生記者 村尾愛

「九州」
人材確保に重点を

第60回済生会九州地区ブロック会議が9月29日、宮崎観光ホテルで開かれ、松原了理事をはじめ支部・施設役員職員68人が参加した。

「支部部会」では、支部でのガバナンスのあり方や介護職員不足の対応について議論。現状の見直しも行なった。

続いて「院長部会」「看護部長部会」「事務（部）長会議」等の5分科会では人材確保やアフターコロナの取り組み・課題について意見交換を行なった。

来年度の開催は（福岡）大牟田病院が担当することに決定した。

（宮崎・日向病院 済生記者 村尾愛）

「あした」は、ナニイロ？

匠島のしごと。
それは「あした」をつくること。
人と自然と向き合って、
よりよい毎日をつないでいくこと。
暮らしを描く、ものづくり。
無限の創造力で、彩り豊かな未来へ。

100年をつくる会社
in 鹿島

「九州」
人材確保に重点を

第60回済生会九州地区ブロック会議が9月29日、宮崎観光ホテルで開かれ、松原了理事をはじめ支部・施設役員職員68人が参加した。

「支部部会」では、支部でのガバナンスのあり方や介護職員不足の対応について議論。現状の見直しも行なった。

続いて「院長部会」「看護部長部会」「事務（部）長会議」等の5分科会では人材確保やアフターコロナの取り組み・課題について意見交換を行なった。

来年度の開催は（福岡）大牟田病院が担当することに決定した。

（宮崎・日向病院 済生記者 村尾愛）